

KRP 地区共創事例 02

産業支援機関が連携し、ビジネスを加速させる

13年の伴走が支えた挑戦

新技術の事業化と海外展開

OHARA PARAGIUM

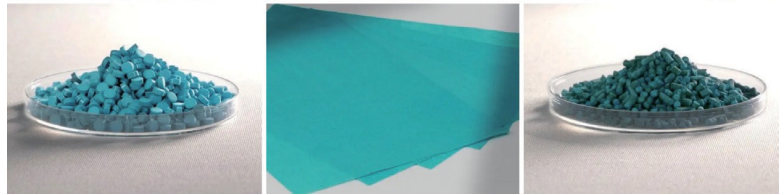
大原パラチウム化学株式会社

創業：1926年

所在地：京都市上京区

事業：繊維加工剤、ガス吸着材等の化学製品の
研究開発・製造・販売

特徴：創業100周年、PCP/MOF技術を活用したガス吸着材
「b.cave」を開発



KRP地区利用のきっかけ

強力な吸着材料の実用化を目指していた大原パラチウム化学株式会社。材料の探索と技術的知見の獲得が課題となっていた中で、京都市産業技術研究所の紹介を通じて、京都大学の樋口特定拠点准教授と面談する機会を得たことが、PCP/MOF※ 関連事業の出発点となりました。以降、同准教授の継続的な指導のもと、経済産業省のサポイン事業（現：Go-Tech 事業）を活用し、成形技術の高度化や測定方法の確立を進めていきました。その後、事業の進展に伴い、KRP 地区内の各支援機関との連携が広がっていきました。

※多孔性配位高分子/金属有機構造体の略称で、金属イオンと有機配位子が組み合わさり、無数の孔がある構造体を指す。同素材を開発した京都大学・北川進氏は2025年のノーベル化学賞を受賞。

数字で見る企業側のメリット

補助金獲得額
約8,300万円

【内訳】

- ・サポイン事業 約6500万の補助
- ・産学公の森 約1800万の補助

粉碎工程の時間短縮

1/12

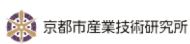
乾燥工程の短縮

50時間以上

今回の事例で関与した支援機関



知的財産 相談窓口



受託研究・外部資金
を活用した支援

京都府中小企業技術センター

化学的分析・
機器利用での支援



生産性向上に向けた
設備導入支援



実証実験
フィールドの提供



補助金の獲得・
活用を支援

KRP地区での支援



支援内容



企業側の
メリット

課題
1

自社技術の知的財産をどう守るか

【2012年5月～継続中】



一般社団法人 京都発明協会

支援担当者より

特許や商標を自社事業へ積極的に活用しようとする姿勢がうかがえました。新製品開発や事業展開に伴う知財課題については、早期にご相談いただくことで、リスク低減と権利活用の両面から支援できます。

他社特許との抵触可能性の検討および侵害回避策の提示、自社技術の特許出願・権利取得支援、新製品の商標出願戦略および表示方法への助言、特許庁手続きに関する疑問点の解消。

法令順守の観点から知財リスクを低減し、特許や商標による自社製品の保護体制を整備。特許庁手続きに関する理解を深め、手続きの円滑化を実現。

課題
2

消臭性能を科学的に証明したい

【2015年11月～継続中】



京都市産業技術研究所【2015年11月～】 京都府中小企業技術センター【2016年12月～】

支援担当者より

PCP/MOF は高性能ゆえに正確な性能検証が不可欠で、それが製品化の課題でした。産技研ではサポイン事業や受託研究を通じて新たな評価手法を確立しました。(令和6年度 知恵創出「目の輝き」認定企業)

新たに構築した分析評価技術により、各種臭気物質に対する PCP/MOF の消臭性能を可視化。あわせて、素材配合比率の最適化調査や製造工程変更が性能に与える影響を検証し、分析装置の貸付利用を行った。

客観的なデータにより開発品の性能検証が可能に。製造工程の自動化による性能への影響がないことを確認し、生産性向上を実現。その結果、瞬間消臭剤「b.cave」の製品化と社会実装が加速した。

課題
3

製品の量産化に向けて生産性の向上を図りたい

【2023年7月～継続中】



公益財団法人 京都産業21

支援担当者より

「b.cave」の従来の製造工程では、材料の粉碎や乾燥に多くの時間を要し、事業化・量産化のボトルネックとなっていました。そのため、生産性向上に向けた補助金の活用を提案しました。

令和5年度「産学公の森」推進事業補助金の活用を支援し、工程改善に向けた設備投資や、フィールド試験用ポータブル脱臭装置の導入をサポート。

PCP/MOF の粉碎工程は 0.1 kg/hr→5 kg/hr (50 倍)、乾燥工程は 2 kg バッチ→60 kg バッチ (30 倍) へと処理能力が向上し、量産要求に対してスムーズかつ安定的に対応できる生産体制を確立した。

課題
4

国内外のビジネスネットワークが限られている

【2020年4月～継続中】



京都高度技術研究所【2020年4月～】



【2025年3月～】

支援担当者より

海外展開に充てられる予算は限られているため、ぜひ補助金や支援機関を活用ください。

実証実験フィールドを提供。サポイン事業(現: Go-tech 事業)およびグローバル・ニッチ・トップ企業創出プロジェクト(海外展開補助金)の活用を支援。

研究開発・海外展開に係る経費を削減。

代表者の声

創業 100 周年を迎える中で、新素材『PCP/MOF』を活用したガス吸着材の開発に挑戦しました。知財保護、性能の可視化、量産化、そして国内外の販路開拓と、一つ一つの課題に対して、KRP地区の支援機関が最適なサポートを提供してくださいました。特に印象的だったのは、10 年以上にわたり各機関が連携しながら伴走してくださったことです。一つの相談から次の支援機関をご紹介いただき、スムーズに課題解決が進みました。老舗企業の新たな挑戦を、KRP地区のエコシステムが支えてくれたと実感しています。

大原 正吉氏
大原パラチウム化学株式会社 専務取締役



2026年3月発行 本資料は、2026年3月時点の情報です。

KRP地区で事業を加速させませんか？

KRP地区ではスタートアップから京都市域企業まで、幅広い企業の成長をサポートする「KRP地区共創パートナーシップ」を展開しています。



産業支援機関が連携し、ビジネスを加速させる

大原パラチウム化学株式会社さまへのサポート分野

下記は、各連携機関の強みを表した図です。 は、大原パラチウム化学株式会社さまへのサポート分野です。

